届け 世界の果てまでも

令和４年５月２７日　Ｎｏ．１３　文責　校長　飯久保一男

自分で判断して行動する子どもを育てる

前号で書きました報酬を与えることは，「他者から統制・束縛されている」という感覚を伴う可能性があるとのことです。人に自分の行動を決められているという感覚になると，「自分で判断をして行動を決めた」という感覚が弱くなり，やる気がなくなってしまうそうです。例としては，宿題をやろうと思っていたときに，「まだ宿題してないの？ 早くしなさい！」と言われ，やる気がなくなってしまうようなことです。

この「他者に行動を決められている感覚になる」要因には【罰があること】【締め切りが決められていること】【監視されていること】【競争させられること】【評価されること】【比較されること】などが明らかになっています。親から子への言葉を例に考えて見ますと

- □ 罰　「宿題をしなかったら，おこづかいなし！」
- □ 締め切り　「宿題を〇時までには絶対に終わらせなさい！」
- □ 監視　「宿題が終わるまで見張っているからね！」
- □ 競争　「きょうだいでどちらが早く終われるか競争するよ！」
- □ 評価　「字が雑！」or「もっと短い時間でできる内容でしょ！」
- □ 比較　「〇〇さんは，帰ってきたらすぐに宿題をするんだって。それに比べて…」

などになるでしょうか。これらは，親から自分の行動を統制・束縛されていると感じ，やる気を失うだけでなく，自己肯定感が低くなる原因にもなるようです。

全ての親は，子どもの幸せを願っています。「子どもにはやりたいことをやらせたい」「子どもを束縛したくない」と考える親も多いと思います。親子で同じ場所にいるときのことを思い出してみてください。親の顔をちらちら見るような子どもは，注意が必要なのだそうです。もしかしたら，無意識のうちに親が統制や束縛をしているのかもしれないとのことです。「子どもの将来の選択肢を増やしたい」ということも，多くの親の願いだと思います。学力を付けることは，将来の選択肢を増やしていく一つの方法です。しかし，選択肢が増えたとしても，自分でその中から選ぶことができなければ，選択肢を増やす努力をしてきた意味がなくなってしまいます。英語を話す力を身に付けた人が，英語でのミュニケーションが必要な場面で，自分からは意見が言えないと黙っていたのでは意味がありません。値段の高いスマホを買って，たくさんのアプリを入れても，それらの機能を使いこなせていないことと同じです。

以前には，「偏差値の高い高校に行って，一流大学を出て，一流企業に就職する」という価値観が多くありました。ところが，現在では価値観が様々です。就職する会社を選ぶ理由の一つに，会社の福利厚生のよさをあげる人がいます。一流企業に就職しなくても，人生をよりよく生きる道がたくさんあることは，多くの人が理解しています。オンラインやリモートで仕事ができるのであれば，通勤しやすい一流企業の多い都会に住まなくても仕事ができます。今，人気のあるユーチューバーのように，自分の好きなことをして稼ぐという価値観もあります。大事なのは，選択肢を持っているということではなく，自分がその中から選ぶ力です。選択肢として身に付けた力を使えるかどうかということです。自ら判断し，行動できる子どもを育てることは，本校の教育目標の一つです。

塾生の自主性を育み引き出すことをめざしている「坪田塾」の塾長の坪田信貴氏の著書『「人に迷惑をかけるな」と言ってはいけない』には，親が子どもを統制・束縛してしまう「１３の禁止令」が書かれています。

きつい言葉が並びますが，私などは，右の欄に書かれている言動の中には，ドキッとするものもあります。

1	存在するな	「お前さえいなければ」といった言葉で，不幸の原因は自分なのだと感じ，生きるに値しない存在だと思ってしまう。
2	何もするな	しつけが厳しかったり，過保護または過干渉だったりして行動を制限されると，大人になってから自分で何をしていいかわからず「指示待ち」の人になる。積極性に欠け，他人の意見に従うようになる。「〇〇ちゃんは何もしなくていいから，座ってなさい」など。
3	成長するな	甘やかされ，自立を否定されて育つと，「子どものままいて，何もできないほうがいい」と思うようになる。「〇〇ちゃんは今のままでいてね」など。
4	感じるな	よく我慢をさせられたり，親から無視されたりすると，欲求や感情をおさえるのが癖になる。感情を表に出すことができず，物事に無関心，無感動になる。「我慢しろ」「大丈夫でしょ」など。
5	お前であるな	「本当は女の子がほしかった」「女は損をする」といった言葉で，性別やアイデンティティーを否定されると，周りの評価や常識に左右されるようになってしまう。
6	子どもであるな	「お兄（姉）ちゃんなんだから我慢しなさい」といった言葉で自立を促され，自由に過ごさせてもらえないと，責任感が強くなりすぎる。物事を四角四面にとらえるようになる。
7	近寄るな	「今は忙しい」「あとで」「静かにしなさい」といった言葉で，親から距離を置かれたりコミュニケーションを拒絶されたりすると，１人で我慢し，悩みやストレスを抱え込むようになる。
8	考えるな	「黙って言うことを聞け」「口答えするな」怒鳴ったりヒステリックに叱ったりすると，考えることをやめてしまう。論理的思考や冷静な判断ができなくなる。
9	成功するな	成功してもほめてもらえないと，「自分は成功できない人間だ」と思い込むようになる。自己評価も低くなる。
10	自分のことで欲しがるな	親が経済的に困っていたり，我慢しているところを見ていたりすることで，素直に欲求を口に出せなくなる。自分の心を押し殺して，人に譲ってばかりになったり，金を貸したり，貢ぐようになったりする。
11	健康であってはいけない	病気のときだけ優しくされたり，病弱な親やきょうだいの面倒を見ていたりすると，病気やケガ，突飛な行動などで気を引くようになる。自分の健康に無頓着になる。
12	重要な人になるな	何をしても親の反応が薄く，認めてもらえないと「自分は重要であってはいけない」と思い，目立たないよう，責任のある役につかないようになる。
13	所属してはいけない	「あの子と遊んではダメ」「この子と遊んであげて」のように，親が友達を選ぶことで，同世代になじみにくく，自分から言い出せずグループに溶け込まないようになる。

辛口の言葉が多くありますが，教職員にも全く同じことがいえると思います。教職員にも指導していくべき内容です。一人一人の子どもの個性にあったふさわしい対応や言葉がけを考えなければいけません。